



清峰だより

令和8年3月24日（火）発行
 長崎県立清峰高等学校
 学校通信 第188号
 発行責任者 校長 富永 貴稔
 学校ホームページ インスタグラム⇒
<http://www2.news.ed.jp/section/seiho-h>



何十年も経って涙するんだったら、なぜぼくはそうしなかったんだろう

校長 富永 貴稔

「巨人、大鵬、卵焼き」。高度経済成長期の少年に圧倒的な人気のあったものをこう言ったそうです。これは、私よりも少し上の世代の話。私たちの頃には、卵焼きなんて普通にありましたから。

中学校のとき、他県から転校生がありました。男子でしたが、なかなか馴染もうとしません。クラスの男子は「なんだアイツ」となって、つらく当たるようになりました。私もそうです。今ではそれを「いじめ」というかもしれません。そんな或るとき、彼のお弁当をたまたま目にしました。卵焼きが、入っていました。「・・・・」。つらく当たることができなくなりました。「どんな思いで彼のお母さんはその卵焼きを焼いたんだろう。どんな気持ちでその弁当を持たせたんだろう」。そう考えるとできなくなりました。かと言って、こちらから話しかけたりすることはありませんでした。ただ何もしない。実に消極的なものでした。

いま思うと何だか泣けてきます。涙が出てきます。でも、当時は、ただ何もしない、それだけでした。

この冬、衆院選がありました。国会の様相は大きく変わりました。若い世代の投票行動が大きく影響した、という識者がいました。「『多様性』を子どもころから学んだいまの若者には、他党批判ばかりだと響かない」のだとか。自分とは異なる意見の持ち主が相手でも、リスペクトを以て聴ける世代なんですね。

私はもうすぐこの清峰を離れます。清峰の皆さんには、こうした優しさを大切にしてほしい。そして、他人に優しくできるよう強くなってほしい。自他ともに頼りになる強い自分をつくる、そのため学んでほしい。そう思っています。

3 学年主任より

3 学年主任 甲斐 新一朗

令和8年3月1日、卒業証書授与式が行われました。男子55名、女子86名、計141名の卒業生が、卒業証書を授与され学び舎を巣立っていきました。卒業生を代表しての答辞では、大浦健司さんが3年間の思いを涙しながら語り、会場がその雰囲気にもまれとても感動的な式となりました。また、1、2年生の後輩たちが整然と式に向かう姿、あの心温まる旅立ちの日にの歌声のおかげで、いい雰囲気の中で式を終えることができました。在校生の皆さん、準備にあたっていただいた先生方、保護者並びに地域の皆様、本当にありがとうございました。

この学年は、事あるごとにいい雰囲気づくりを大切にしてきました。どんなにきつくて苦しいことがあっても、いい雰囲気であれば乗り越えることができます。2年生の皆さんは、いよいよ最高学年ですね。1年生の皆さんは中堅学年、学校の要となる2学年です。先輩達が残した伝統をしっかりと受け継ぎ、それぞれが学年にふさわしい行動や雰囲気でも頑張っていきましょう。

3 年生、御卒業おめでとうございます！

(答辞の一部を抜粋)

後輩の皆さん。みんながいたからこそ、思い出がたくさんあります。清峰高校は、地域に愛される学校です。それは私たちの先輩方が築き上げてきたものがあるからです。そして、これからも清峰には愛される存在であってほしい。そのためには、みなさんが一丸となって一生懸命にやっつけていかなければなりません。主役は皆さん一人ひとりです。「自分たちが清峰を作っていくんだ」という気持ちを持って、これからの清峰高校を創り上げていってください。



先生方。先生方には本当に溢れんばかりの愛情を注いでいただきました。特に三年間、学年主任として個性豊かな私たちを導いてくださった甲斐先生。今日の私たちが、先生の目にどのように映っていますか。先生の厳しさの裏には、私たちに對する大きな愛情があることを知っています。個性豊かな二十三回生のお父さん的な存在です。三年間本当にありがとうございました。先生方と一緒に笑ったり、感動したり、時には先生を怒らせたり。その全てが今となっては思い出です。必ず立派な人間になってみせます。私たちを温かく見守って下さり、本当にありがとうございました。

私たちが楽しい時も苦しい時も、そこには家族の存在がありました。私は部活動や勉強、そして進路など、人一倍、迷惑や、苦労をかけてしまったと思います。しかし、その分さまざまなことに挑戦し、責任をもって果たそうと取り組んできました。それは私だけではないはずです。ここにいるみんなも、家族に喜んでもらうために精一杯頑張ってきました。家族という存在は、心のよりどころです。まだまだお世話になると思いますが、でも、少しずつ恩返しをしていきます。

今までありがとう。そして、これからもよろしくお願いします。

二十三回生のみんな。ここまで、一緒に走り抜いてくれてありがとう。みんなと出会ったあの日から今日まで本当にいろんなことがありました。将来への希望や、不安を抱きながらの三年間、お互いに支えあいながらここまでやってきました。褒められ、叱られ、泣いて、笑って、本当に予測不能な、ドラマチックな三年間でした。「出会いは偶然」というけれど私は「出会いは必然」だと思っています。ここにいるみんながこうやって清峰に集まったのもきっと理由があると思います。今、みんなの隣にいる人、前後にいる人はどんな存在ですか。どんな思い出ができましたか。大切な存在。たくさんの思い出。本当にありがとう。

残念ながら、別れの時が近づいてきました。今、私たちは卒業を迎えると同時に、新たなスタート地点に立とうとしています。先ほど手にした卒業証書は思い出の詰まった、未来へ向かう船のチケットです。これから私たちは社会という大海原へと漕ぎ出します。時には、進むべき方向が分からなくなる時もあるかもしれません。しかし、きっと大丈夫。この学び舎で培った知識と経験が進むべき方向を指し示してくれるはずです。深い霧に包まれて、闇夜の嵐に巻き込まれても、ここでの思い出が、必ず僕たちを明るく照らしてくれるはずです。この校舎を去るのはとても寂しいけれど、私たちは旅立ちます。混沌とした社会の中でもきっと輝き続けることでしょ。僕らの船旅はきっとこの学び舎が、灯台となって照らしてくれると信じています。もうすぐ、出航の時間です。ありがとう、清峰高校。さようなら、清峰高校。私たちは永遠に誠実の清峰生です。

最後になりましたが、これまで私たちに関わってくださったすべての方々に感謝し、清峰高校の益々の発展を願い、答辞といたします。

(答辞の一部) 卒業生代表 大浦 健司 さん



異動される先生方

氏名	教科・所属学年等	部活動顧問	転任校など
富永 貴稔先生	校長		(役職定年・教諭へ) 北陽台高等学校
竹田 聖基先生	教頭		島原高等学校
山田 和浩先生	地歴・公民科	写真新聞部	長崎鶴洋高等学校
中村 孝二先生	数学	卓球部	諫早東高等学校
菅藤 栄子先生	英語	英語部	諫早農業高等学校
中村 真澄先生	英語	バドミントン部	大崎高等学校
園田 愛 先生	福祉		退職
田島 紫保先生		教員業務支援員	退職

長くお世話になった先生方から、1年間お世話になった先生方まで、ありがとうございました。すべてが先生方との貴重な思い出です。



新天地での先生方のご活躍を祈念いたします。本当にありがとうございました。

ロードレース大会

去る1月30日(金)、校内ロードレース大会を行いました。当日は天候に恵まれ、気温は低いながらも好条件のもとで開催することができました。日頃の体育の授業で培った体力と精神力で、男子10km、女子5、3kmのコースを駆け抜けました。3年生のサポートや応援もあり、大変盛り上がる大会となりました。また、終了後はPTAから豚汁の差し入れがありました。地域の方々をはじめ、いろいろな方々のご協力のおかげで無事に終了することができました。本当にありがとうございました。なお、学級対抗の部では、男子が2年1組、女子が2年3組の優勝でした。



第21回総合学科発表会～「蕾(つぼみ)～個性咲き誇れ～」

令和8年2月4日(水)、佐々町長濱野互様、佐々町教育長富野毅様ご臨席のもと、第21回総合学科発表会を開催しました。インフルエンザ感染拡大防止のため、当初予定していた全校合唱を手話合唱のみに変更しましたが、その他のプログラムは、予定どおり実施することができました。3年保育選択者による劇「おおきなかぶ」に始まり、3年進路決定者によるパネルディスカッション「私の歩んだ道・歩む道」、1年生「産業社会と人間」、2年生「総合的な探究の時間」の各クラスの発表と続きました。昼休みの展示見学をはさみ、午後は3年生の課題研究の発表です。閉会式では高校教育課キャリア教育班指導主事村田夏紀先生から御講評を賜りました。発表も展示も生徒達が準備に時間をかけて取り組んだ、充実した発表会でした。総合学科委員と生徒会有志からなる実行委員も、それぞれの持ち場で大いに活躍しました。



保育選択者発表

保育選択者は、日頃の授業の中で、保育士になるために必要な知識や技能の習得に励んでいます。総合学科発表会では、授業で学んだことを生かして、劇「おおきなかぶ」の発表に挑戦しました。衣装や大道具・小道具の制作、配役や振り付けなど、話し合いを重ね、試行錯誤しながら自分たちの手で作り上げました。当日は、音響がうまくいかなかったりといったハプニングもありましたが、将来保育士として働く時に参考になる、貴重な経験をすることができました。



ハングル科目受講者 韓国的高校生と交流会

2026年1月15日(木)に韓国のユハン工業高校から約30名の学生が来校し、3年生のハングル科目受講者と交流会を実施しました。交流会では、自己紹介やイントロクイズ、ジェスチャーゲームなどのレクリエーションを通して、日本語と韓国語を交えながら楽しく会話する様子が見られました。また、ユハン高校の生徒との混合グループ活動では、共通の話題で盛り上がり、お互い気になることを質問し合ったりと、終始和気あいあいとした雰囲気で行うことができました。この経験を活かし、さらにハングルや韓国文化に興味を持って学習を続けていくことを願っています。



佐々町こども議会

2月14日(土)、佐々町子ども議会が、佐々町役場で開催されました。子ども議員として、佐々町内の小学生(口石小、佐々小)4名、中学生(佐々中)4名、高校生3名が参加し、町政一般質問を行いました。清峰高校からは、2年の宮崎要輔くん、高瀬想来さん、藪田誠真くんが参加しました。議長を務めた藪田くんは、「実際に議会に使われている会場で議長を務めさせていただき、とても貴重な経験をさせていただきました。緊張しましたが、地域の課題について考える良い機会になりました」と話していました。